

月刊 やちまなこ

2013.6.15 発行

No. 187

6 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



新緑がまばゆい季節となり、センター周辺からエゾハルゼミの鳴き声が賑やかにきこえ、目の前をヤナギの綿毛が次々と流れてゆく。2か月前は雪が残り、肌寒いフィールドも一気に春から初夏へと衣を替え、再び湿原に人々が集い始めた。

コッタロ川と湿原のほとりから

156 6月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“郭公に音頭取られて夏は来ぬ”。朝の気温一桁台（7℃～9℃）とは裏腹にウナギ昇りの日中（28℃）との較差，そして夕刻ともなれば一気に下がってしまうちぐはぐな気候には眉を上下させられるおかしさに，笑ってばかりもいられません。

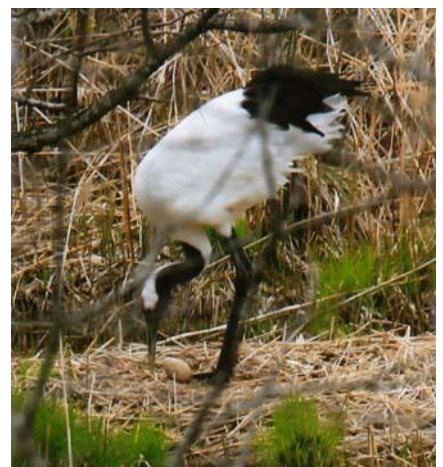
ところがこのけたたましい変動をものともせずエゾ春蟬は6日に羽化した順に雀のえじきとなっておりましたが，9日から一斉に大合唱。

初夏の日射しを有難く受けとめてぐんぐん育つ樹木の中でも特に「空に憧れて」枝を伸ばす胡桃は，先端に芽吹き始めた若葉を一息で開かせようとの目論見が当って上機嫌！又一足先にやわらかい緑のビロードが艶やかな葉を繁らせたワタドロの大木達は，心地好く吹き渡る風になぶられ乍ら踊っている若葉を楽しんでいると云った情景です。

一方，緑一色にしか見えない大地もよく観ると，地面を這う様に咲く黄色のキジムシロはムシロを敷いた様に，紫色のあまり目立たない垣通しの花や，筆リンドウの極小花達は，まるで花莫莖を敷き詰めた風情に，これまた息をのむことしきり。そこいら中に自生しているヒオウギアヤメが濃紺の花を咲かせるのも間もなくでしょう。

ところで嬉しいお知らせと云えば5月13日に初飛来の100羽を越すカワラヒワと，♂♀5～6羽で渡来したクロジの小群でしたが，それも一部分しか撮れなかった彼等を詠んで“大挙して右往左往のカワラヒワ”。“クロジ来て9年の月日流れけり”。

さて，特筆すべきは，3月13日の産卵から本日（10日）迄のほぼ3ヶ月間抱卵し続けている丹頂のコツ&タロの番で，2つあった卵が5月13日からは1つとなり，尚も交替で抱き続けているこの健気さ！最早『神のイタズラ』にほかなりますまいね。それにつけても卵の殻の堅さはいかばかりかと又，なかなか割れないもどかしさに思いをはせるばかりです。



湿原の住人たち その147

湿原周辺や釧路川沿いでは、エゾノコリンゴの花が見ごろをむかえ、木一面を飾る白い花が遠くからも目立ちます。近くで花を見ていると、ぶんぶん音をたてながらやってきたのはマルハナバチの仲間で、小花に頭を入れて蜜をいただいているようでした。6月下旬から出始めるシロチョウ科の最大種エゾシロチョウには食樹のひとつとして葉っぱを、野鳥には紅い果実をごちそうとして提供してくれます。一年を通して木を見ると色々な繋がりが見えて面白いですよ。

エゾノコリンゴ



初夏の湿原でバードウォッチング



6月8日午前10時から正午にシラルトロ湖と蝶の森周辺で新緑の湿原バードウォッチングを開催しました。講師の音成邦仁氏（タンチョウコミュニティ代表）から、鳥のさえずりや体の特徴、環境によって見られる鳥が違うことなどを教わりながら、声だけの確認も含めて25種類の野鳥を観察しました。湖岸では旅立ちが遅れていたのか6月の探鳥会初記録になるミコアイサを、蝶の森ではエゾハルゼミをくわえたニュウナイスズメの雌と遭遇しその食事場面を観察しました。（参加者19人）



ネムネムのとうろうろうろ日記 Vol.43「カワイイ顔には気をつけろ！」

郷土館の前の庭で、コムクドリの群れがグループデート（死語？）しています。黒目がちで、ぱっちりした瞳、頬にはチーク（オスのみ）、「キュル、キュル・・・」とかわいい声で鳴く鳥が、青空とサクラの花をバックに、タンポポが咲く原っぱで愛を語る・・・なんて、古い青春映画のような爽やかさです。

しかし、こいつらはあんがい腹黒でして。オスは複数の巣穴を確保したが、巣のそれぞれにメスを誘って、一夫多妻になることがあるそうです。その上オスは最初にヒナかえった巣の子育てしかしないので、他の巣はほったらかし。結果メスだけで子育てする巣が出るというのだからひどい話です。またメス同士もよその巣にタマゴを産み付けることもある（種内托卵）というのですから恐ろしい。普通、メスは5～6個ほどのタマゴを産むそうですが、中にはあちこちからタマゴを押し付けられて、巣の中の卵が10個を超えてしまうお人好し（お鳥好し？）もいるのだとか。

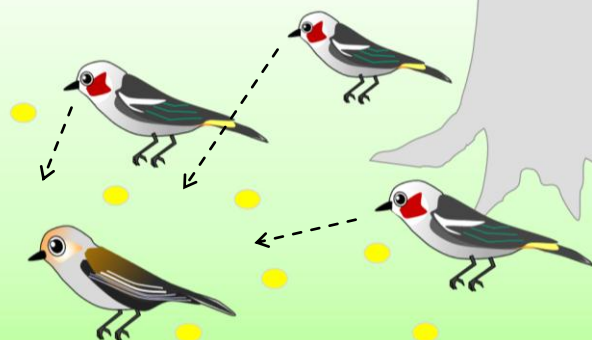
どんなにかワイ顔をしていても、オスは信用ならない、メスは怖い。これは鳥に限ったことではないけれど、背筋が少々寒いです。

辻 ねむ（標茶町郷土館学芸員）

5がつ26 にち

ばしよ とうろ

常にメスの様子を伺っているので、オスは皆、同じ方向を向いてました・・・。



メスはオスを振り回し、オスはメスを騙す。そしてメス同士も騙しあい・・・昼のメロドラマですか！

7月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

体験講座 擦文土器を作ろう (標茶町郷土館共催)

[日時] 7/20 (土) 10:00~14:00

[定員・参加料] 15名、300円 (材料代)

〔場所〕 塘路湖エコミュージアムセンターレクチャールーム

〔持ち物〕 手拭きタオル、エプロン、昼食

[illegible]

初夏の湿原花ハイク [日時] 7/7 (日) 10:00～12:00

ホタルウィーク [日時] 7/17 (水) ~ 21 (日) 19:00~20:30

 申し込み問い合わせは 温根内ビジターセンターまで TEL 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(5/21)キタコブシ見頃 (5/22)エゾヤマザクラ、オオバナノエンレイソウ (5/25)アカネスミレ、レンブクソウ、ヒメイチゲ、エゾエンゴサク、キジムシロ、エゾオオサクラソウ (5/31)エゾノウワミズザクラ、ミヤマエンレイソウ、ツルネコノメソウ、シラカバ・オニグルミ・ミズナラの雄花 (6/1)エゾクサイチゴ、フデリンドウ、ミツバツチグリ、スミレ、ミズバショウ、イタヤカエデ、コンロンソウ (6/7)コウライテンナンショウ、マイヅルソウ、ネムロブシダマ、エゾノコリンゴ (6/9)バイケイソウ、ワタスゲ、シコタンキンポウゲ、ミヤマザクラ、アヤメ、ヒメイズイ、ヒメカイウ、ツマトリソウ、ヤマブキショウマ、スズラン (6/11)エゾスカシユリ

【鳥】(5/17)ノゴマ、エゾセンニュウ (5/22)ムクドリ (5/24)クロジ、メジロ (5/25)ウグイス、エゾムシクイ、アカエリカイツブリ、アオサギ、ショウドウツバメ (5/28)カワラヒワ (5/31)キンクロハジロ、コサメビタキ (6/1)アマツバメ、ヤマゲラ、コムクドリ、カッコウ、ツツドリ、アオジ (6/8)ミコアイサ、ベニマシコ、オジロワシ (6/9)ハリオアマツバメ、ヨシガモ (6/10)カワセミ

【その他】(5/25) シマヘビ、エゾオオマルハナバチ、チャミガサタケ (5/28) キタキツネ、エゾシカ (5/31) カラスアゲハ、ミヤマセセリ (6/7) ヨツボシトンボ、エゾハルゼミ、ミヤマカラスアゲハ (6/9) キアゲハ

■花のシーズン到来です。草木の葉が茂る雑木林など自然の中では、蚊やブユといった虫はつきもの
です。長袖長ズボンを着用し虫除け対策をして散策をお楽しみください。

◆日出・日入時間 6/15(3:43, 19:03). 6/30(3:46, 19:06). 7/14(3:56, 19:00)



お母さんはどこ？（6/8 かや沼パークゴルフ場）

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこつと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

開館時間 10：00～17：00（11月～3月は16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料